

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-171	高等学校	地理歴史科	日本史A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	日A312	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来		

1. 編修の趣旨及び留意点

生徒が歴史を身近なものとしてとらえることができるようにすること、現在の私たちも歴史のなかにいることを生徒に意識させ、歴史の当事者としての意識をもたせることができるようにすることを重視し、生徒に歴史を学ぶことの意義や必要性を認識させることができるようにした。さらに、現在の日本を形成した歴史的過程に対する十分な理解と認識をもたせるなかで、日本人としての自覚を養い、国際社会で主体的に生きていくことができるようにした。その学習においては、近現代の日本の歴史の変化や推移などを大きな流れでとらえられるようにし、さらに歴史の考察にあたってはさまざまものが歴史資料となることに気づかせ、実際にみずからその資料を活用して歴史を考察することができるように留意した。

2. 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

見やすい見開き構成の紙面とし、本文記述を軸に、注・図版・写真を配して、学習内容を総合的に理解できるようにした。

本文内容は、全体的に学習内容を厳選し、無理なく消化できるようにした。また、記述は、わかりやすい表現となるようにした。各テーマの導入部分には、テーマの目的を示した「問いかけ」の文章をいれ、学習の指標として位置づけた。

図版学習に十分配慮し、とくに写真の選択では、時代を代表するものやその時代の特殊性を示すものなど、内包する要素を多く含むものを数多く取り上げるようにした。

現在に残るさまざまな問題について理解を深められるようにした。現在の諸問題の起点となる部分の記述では、現在とのつながりを理解できるように留意した。

歴史をさまざまな角度からみることによって、幅広い歴史学習をおこなうことができるようにするため、日本の近現代を理解するうえでポイントとなる事柄に焦点をあてた特集「クローズアップ」、ある人物の目を通して時代・社会背景を理解する特集「歴史の目」を取り入れた。そのほか、人物を紹介する「キーパーソン」、世相や人々の生活のようすなどを紹介する「エピソード」などのコラムを設け、興味・関心をもって日本史学習に取り組めるようにした。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1部 私たちの時代と歴史	<p>「私たちの時代」では、歴史的出来事をみずからの体験と重ね合わせることによって、現在の自分自身の視点から歴史をとらえられるようにし、個人の価値を尊重して創造性を培い、自主および自律の精神を養うことができるように留意した(第2号)。</p> <p>「私たちの身近なところから歴史を学ぼう」では、歴史学習の導入として、まず私たちの身のまわりにあるモノ・事象を題材として歴史学習を深め、さらに身近なところから歴史を考えることによって、自分自身を歴史のなかに位置づけて考えることができるようにし、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した(第1号)。</p>	p.2~3
私たちの時代 私たちの身近なところから歴史を学ぼう		p.4~7

<p>第2部 近代の日本と世界 第1章 近代国家の形成と 国際関係の推移 第1節 近代への胎動</p>	<p>近代の前段階としての、江戸時代の国際関係、近代のいびきとしての文化的側面など、近世後半の政治・社会・文化について丁寧に記述し、日本史A学習の目的である近現代学習を深めることができるようにした。幅広い知識や教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した(第1号)。</p> <p>さまざまな人物の業績を紹介し、そのなかで、はじめてのことで成し遂げるための困難や苦労などにもふれ、その責任意識を理解し、正義と責任を重んずる心を養い、また、道徳心を培うことができるように留意した(第1号・第2号・第3号)。</p>	<p>p.22 ~ 35</p>
<p>近代の追究1 旅行はいつ頃から 身近になったのだ ろうか</p>	<p>私たちの身のまわりにあるモノ・事象を題材として、歴史学習を深めることができるようにし、さらに身近なところから歴史を考えることによって、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した。ここでは、修学旅行を中心とした日本人と旅行というものに注目して、日本人の生活と産業とのかかわりについて考えられるようにした(第1号)。</p>	<p>p.32 ~ 33</p>
<p>第2節 明治維新 第3節 近代国家の形成</p>	<p>幕末から明治にかけての展開を時系列に丁寧に記述し、動乱期の複雑な政治・社会情勢について、整理して理解をはかれるようにした。また、対立する諸勢力について公正に記述し、それぞれの立場を客観的に理解させ、幅広い知識や教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した(第1号)。</p> <p>幕末から明治初期の海外使節や留学生などを取り上げ、これらの資料を通して、知識獲得のための先人の努力を理解するとともに、海外からの文化の導入が日本の近代化に大きく影響していたことを理解できるようにし、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように留意した(第5号)。</p> <p>明治政府成立から大日本帝国憲法の制定にいたる流れを説明するにあたっては、政府の政策とこれに対する社会の動きとともに、生活やくらしとの関連を重視した(第2号)。</p>	<p>p.36 ~ 69</p>
<p>第4節 国際関係の推移 と近代産業の発 展</p>	<p>条約改正から日清・日露戦争にいたる経過について、時系列に丁寧に記述することで、歴史の大きな流れを理解できるようにした。その際、国際情勢の状況、国内の政治・社会状況、人々の生活・くらしについても理解できるように留意し、幅広い知識や教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した(第1号)。</p> <p>与謝野晶子や矢嶋楯子らの活躍を紹介し、さらに近代の女子教育について理解を深められるテーマを設け、それらの題材を通して、近代における女性の立場を理解し、公共の精神にもとづき主体的に社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように留意した(第2号)。</p> <p>さまざまな教育活動や福祉活動などに貢献した人物を取り上げ、その活動を通して、みずからの正義や責任、敬愛の精神をはぐくむことができるように留意した(第3号)。</p> <p>明治期の経済発展についての学習では、さまざまな技術開発にたずさわった人物などを取り上げ、その成果が日本の伝統的な技術・文化に根ざした技術の結晶であることに気づかせ、我が国と郷土を愛することができるように留意した(第5号)。</p>	<p>p.70 ~ 97</p>
<p>近代の追究2 制服はいつ頃誕生 したのだろうか</p>	<p>私たちの身のまわりにあるモノ・事象を題材として、歴史学習を深めることができるようにし、さらに身近なところから歴史を考えることによって、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるように留意した。ここでは、制服を中心として、学校という高校生にとってもっとも身近な生活環境を通して、近代社会の特質を考えられるようにした(第1号)。</p>	<p>p.92 ~ 93</p>

<p>第2章 両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>第1節 第一次世界大戦と日本</p>	<p>第一次世界大戦の勃発から日本の参戦，その後の国際協調外交など，国際社会における日本の状況について丁寧に記述した。また，国内的な政治・社会の動き，国際的な動きなどとかかわらせて，大正・昭和初期の政治・経済・社会の動向を理解できるようにし，幅広い知識や教養を身につけ，真理を求める態度を養うことができるように留意した（第1号）。</p> <p>さまざまな人物について取り上げ，その際，みずからの信念にもとづき活動したこれらの人物を通して，正義や責任，敬愛・公共の精神といったものを養えるように留意した（第3号）。</p> <p>さまざまな社会運動の高揚についても記述し，その際，とくに女性解放運動などについて着目し，女性の地位向上に向けた取り組みや社会進出について理解を深め，公共の精神にもとづき主体的に社会に参画し，その発展に寄与する態度を養うことができるように留意した（第3号）。</p>	<p>p.98 ~ 121</p>
<p>第2節 第二次世界大戦と日本</p>	<p>満州事変から日中戦争，太平洋戦争へといたる大きな流れを，国内情勢・国際情勢とかかわらせて理解できるようにした。そのなかで，国民生活・くらしといった視点を重視し，身近なところから当時の社会を理解できるようにし，幅広い知識や教養を身につけ，真理を求める態度を養うことができるように留意した（第1号）。</p> <p>水木しげるや手塚治虫といった現在の高校生たちになじみのある人物を取り上げ，歴史の対する興味をもたせるとともに，これらの人物の体験を通して，より身近に戦争というものの実情を理解できるようにし，創造性を培い，自主および自律の精神を養い，さらに生命を尊ぶ心を養うことができるように留意した（第2号・第4号）。</p> <p>戦争の実情の理解においては，日本がたどった経緯を時系列に説明し，そのなかで他国の文化や生活を尊重する態度を養えるように留意した（第5号）。</p>	<p>p.122 ~ 145</p>
<p>近代の追究3 流行歌はどのように誕生したのだろうか</p>	<p>私たちの身のまわりにあるモノ・事象を題材として，歴史学習を深めることができるようにし，さらに身近なところから歴史を考えることによって，幅広い知識と教養を身につけ，真理を求める態度を養うことができるように留意した。ここでは，流行歌の変遷を通して，生活文化とメディアの発達とのかかわりについて考えられるようにした（第1号）。</p>	<p>p.146 ~ 147</p>
<p>第3章 現代の日本と世界</p> <p>第1節 日本の再出発</p> <p>第2節 独立後の政治と経済の発展</p> <p>第3節 現代の日本と世界</p>	<p>第二次世界大戦の終戦直後から現在までの流れを，時系列に展開した丁寧な記述をおこない，これによって戦後の大きな流れを理解できるようにし，幅広い知識や教養を身につけ，真理を求める態度を養うことができるように留意した（第1号）。</p> <p>生活・くらしの題材を豊富に取り上げた。身近な学校・映画・テレビ・交通・もち物などを題材とし，これらのその時々のようなことを伝えることによって，歴史学習をより身近なものとしてとらえることができるようにし，創造性を培い，自主および自律の精神を養うことができるように留意した（第1号・第2号）。</p> <p>日本国憲法の制定の経緯，さらに男女平等の規定について理解を深められるようにした（第3号）。</p> <p>戦後日本の経済復興を支えた技術・人，世界に認められた文化や人などを取り上げ，我が国と郷土に対する誇りや愛情をはぐくむことができるようにすることに留意した（第5号）。</p> <p>本文のまとめにおいては，現代日本のかかえる課題について取り上げ，そのなかで，国際社会における日本の役割，私たちにできる社会貢献について考えられるようにし，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように留意した（第5号）。</p>	<p>p.148 ~ 197</p>

<p>現代からの探究 1・2 歴史と共に生きる ということについて 考えよう</p>	<p>私たちの身のまわりにあるモノ・事象を題材として、歴史学習を深めることができるようにし、さらに身近なところから歴史を考えることによって、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求め態度を養うことができるように留意した(第1号)。</p> <p>私たちの身のまわりには、さまざまな歴史的遺産があり、私たちはその価値に気づかなければならないことなどを理解できるようにし、さらに、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように留意した(第4号)。</p> <p>文化財とは法律によって守られるものだけではないこと、私たちの生活に溶け込んだものも貴重な文化財であること、それを守ることが歴史を学ぶ私たちの責任でもあることを理解できるようにし、公共の精神にもとづき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように留意した(第3号)。</p> <p>東日本大震災を機に注目されているいわゆる「文化財レスキュー」という視点に注目し、その事業や活動の具体的な内容を説明するなかで、文化財のもつ意義、それと接する私たちの責任というものを考えることができるようにし、公共の精神にもとづき主体的に社会の形成に参画する態度や、我が国と郷土を愛する態度を養うことができるように留意した(第3号・第5号)。</p>	<p>p.198～205</p>
<p>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>・巻頭に「世界遺産でみる日本のあゆみ」や「コラム 近現代学習のはじめに」を設け、本文においても略年表を設置し、物事を時間的な流れのなかで理解できるようにした。また、同じく巻頭に、「近現代学習お役立ち地図」をはじめとした現在の地図を設けるなど、時間と空間での理解に配慮し、一般的な教養を高め、そのうえで専門的な知識、技術および技能を習得させることができるようにした。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-171	高等学校	地理歴史科	日本史A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	日A312	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 生徒に歴史の当事者としての意識をもたせられるように配慮した。
 - ・学習の導入である「私たちの時代と歴史」では、自分史年表の作成から学習をはじめるようにした。社会のおもな出来事に関連して自分自身の出来事を重ね合わせて理解し、私たちが歴史のなかにいることを認識できるようにした。また、世界で活躍する同年代の人々を紹介し、歴史は決して過去のものを学ぶだけのものではないことを理解できるようにした。
 - ・現在に残る歴史的な建物や実物の写真を豊富に取り入れ、私たちの身近なところにも歴史が存在することを理解できるようにした。
 - ・「近代の追究」「現代からの探究」の各テーマにおいては、主体的に学習に取り組めるような課題を提示した。調査の方法やその表現手法を具体的に提示し、また、それは学習の段階（習熟度）にあったものとなるように配慮した。
2. 地理的条件や世界の歴史と関連させて学習を深められるように配慮した。
 - ・各章の最初には扉を設け、そこでは、年表や、写真の展開によって日本・世界の情勢を相互に関連させながら理解できるようにした。また、世界の情勢を示した地図を設置し、その章で扱う重要地名について場所を確認できるようにした。
 - ・本文において、国際情勢にかかわるところでは日本を含めた国際情勢を理解できる地図を設けた。また、学習の手助けとなるようなポイントを絞った簡略な地図も適宜設置した。
3. 諸資料を活用した学習によって歴史的考察を深めることができるように配慮した。
 - ・著名な絵画や写真などのほか、映画・テレビ・漫画などの画像も随所に取り入れ、さまざまなものが歴史的資料となることを理解できるようにした。また、特集ページ「歴史の目」では、ある人物が書いた著作物の文章を取り上げるなど、さまざまな角度から歴史学習を深められるようにした。
4. 学習の導入とまとめを意識した学習に配慮した。
 - ・学習全体の導入として「私たちの時代と歴史」を設置し、さらにその内容はみずからの体験からはいるようにした。「現代からの探究」は2テーマを設置し、私たちの身近にある歴史的遺産を取り上げた。ここでは、近代化遺産・戦争遺跡のほか、歴史的景観や町並みの存在にも気づかせ、こうした文化財を守ることが歴史を学んだ私たちの責任であることにふれ、これを学習全体のまとめとして位置づけた。
 - ・巻頭に「コラム 近現代学習のはじめに」を設置し、本文通史学習の導入として近代以前の日本のあゆみを概観できるようにした。また、日本の代表的な世界遺産を手がかりに時代の流れを理解できるようにページも設置した。これらによって、日本史A本来の近現代学習にスムーズにはいれるようにした。
 - ・本文各テーマでは、導入部分にテーマの目的を示した「問いかけ」の文章を設置、学習の指標となるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1部 私たちの時代と歴史	(1)	-	-
私たちの時代		p.2~3	1
私たちの身近なところから歴史を考えてみよう		p.4~7	1

コラム 近現代学習のはじめに	-	p.10～15	-
第2部 近代の日本と世界		-	-
第1章 近代国家の形成と国際関係の推移		-	-
第1節 近代への胎動	(2) - ア - (ア)	-	-
1 せまってくる外国船		p.24～25	1
2 ちからを蓄える庶民		p.26～27	1
3 近代思想のいびき		p.28～29	
近代の追究1 旅行はいつ頃から身近になったのだろうか	(2) - ウ	p.32～33	1
4 揺らぐ幕藩体制	(2) - ア - (ア)	p.34～35	1
第2節 明治維新		-	-
1 黒船がやってきた		p.36～37	1
2 志士たちの時代	(2) - ア - (ア)	p.38～39	1
3 手を結ぶ薩長		p.40～41	1
4 近代との出会い		p.44～45	1
5 江戸幕府が終わり新政府へ		p.46～47	1
第3節 近代国家の形成		-	-
1 江戸が東京になった		p.48～49	1
2 天皇の軍隊がつくられた		p.50～51	1
3 スローガンは「富国強兵」		p.52～53	
4 欧米文化がはいってきた		p.54～55	1
5 日本の国境が定まった	(2) - ア - (ア)	p.58～59	1
6 爆発する農民や士族の不満		p.60～61	1
7 国会開設が決まった		p.62～63	1
8 地主制が進行した		p.64～65	1
9 立憲政治がはじまった		p.66～67	1
10 国会がはじめて開かれた		p.68～69	1
第4節 国際関係の推移と近代産業の発展		-	-
1 欧米と肩を並べる国をめざして		p.70～71	1
2 清国との対立が深まった		p.72～73	1
3 藩閥と政党が接近した	(2) - ア - (イ)	p.74～75	1
4 ロシアとの戦争がおこった		p.76～77	1
5 アジアへの勢力拡大がはじまる		p.78～79	1
6 国民の生活が圧迫された		p.80～81	1
7 綿糸と生糸が支えた産業革命		p.82～83	
8 欧米の資本主義に仲間入りした		p.84～85	1
9 貧富の差が広がった	(2) - イ - (ア)	p.86～87	1
10 国家主義が台頭する		p.88～89	
11 教育が進展した		p.90～91	1

近代の追究2 制服はいつ頃誕生したのだろうか	(2) - ウ	p.92 ~ 93	1
12 明治の文化が花開いた	(2) - イ - (ア)	p.94 ~ 95	
第2章 両大戦をめぐる国際情勢		-	-
第1節 第一次世界大戦と日本		-	-
1 民衆が政治を動かしはじめた		p.100 ~ 101	1
2 最初の世界大戦に日本も参戦した	(2) - ア - (イ)	p.102 ~ 103	1
3 成金の時代がやってきた	(2) - イ - (イ)	p.104 ~ 105	1
4 朝鮮・中国の民衆が立ち上がった		p.106 ~ 107	1
5 日本は欧米に歩調をあわせた		p.108 ~ 109	1
6 「平民宰相」が登場した		p.110 ~ 111	1
7 抑圧からの解放をもとめて		p.112 ~ 113	1
8 新しい文化とモダンな都市が生まれた	(2) - イ - (ア)	p.114 ~ 115	1
9 学問と芸術に新風が吹く		p.116 ~ 117	
第2節 第二次世界大戦と日本		-	-
1 恐慌の嵐が吹きあれる		p.122 ~ 123	1
2 日本の外交が行きづまる		p.124 ~ 125	1
3 軍部の暴走がはじまった		p.126 ~ 127	1
4 中国との長い戦いがはじまった		p.128 ~ 129	1
5 戦争の影が文化におよぶ	(2) - イ - (イ)	p.130 ~ 131	1
6 すべてが戦争に協力された		p.132 ~ 133	
7 アメリカとの戦争がはじまった		p.134 ~ 135	1
8 戦争が拡大する		p.136 ~ 137	
9 アジア・太平洋の諸民族にかかわった		p.138 ~ 138	1
10 生活も戦争に染まった		p.140 ~ 141	
11 戦争が終わった		p.144 ~ 145	1
近代の追究3 流行歌はどのように誕生したのだろうか	(2) - ウ	p.146 ~ 147	1
第3章 現代の日本と世界		-	-
第1節 日本の再出発		-	-
1 占領軍がやってきた		p.150 ~ 151	1
2 日本が生まれかわる		p.152 ~ 153	1
3 新しい国のしくみ	(3) - ア	p.154 ~ 155	1
4 飢えとのたたかい	(3) - イ	p.156 ~ 157	1
5 飢えのなかでも解放感があった		p.158 ~ 159	
6 民主化から経済復興へ		p.162 ~ 163	1
7 復興への転機到来		p.164 ~ 165	1
8 複雑な環境のなかでの独立		p.166 ~ 167	1
第2節 独立後の政治と経済の発展		-	-
1 平和への願いが叫ばれた	(3) - ア	p.168 ~ 169	1
2 保守と革新の正面衝突	(3) - イ	p.170 ~ 171	1

3 奇跡の経済成長がはじまった	(3) - ア (3) - イ	p.172 ~ 173	1
4 奇跡の経済成長の影		p.174 ~ 175	1
5 あらたな戦争にまきこまれた		p.176 ~ 177	1
6 豊かさの中流意識		p.178 ~ 179	
第3節 現代の日本と世界		-	-
1 2つのショック	(3) - ア (3) - イ	p.182 ~ 183	1
2 経済大国が誕生した		p.184 ~ 185	
3 消費はファッションになった		p.186 ~ 187	1
4 バブルはこうしてふくらんだ		p.188 ~ 189	
5 大きな歴史の転換をむかえた		p.190 ~ 191	1
6 政局と経済が混迷する		p.192 ~ 193	
7 これからの日本について考えよう		p.194 ~ 195	1
8 時代の転換点に立って		p.196 ~ 197	
現代からの探究1 歴史と共に生きるということについて考えよう	(3) - ウ	p.200 ~ 201	1
現代からの探究2 歴史と共に生きるということについて考えよう		p.202 ~ 203	
		計	64